

2024年8月26日

横浜ゴム、国内資源循環による脱炭素社会実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」に参画

横浜ゴム（株）は気候変動緩和対応の一環として、国内資源循環による航空業界の脱炭素化を推進するプロジェクト「Fry to Fly Project（以下、本プロジェクト）」に2024年8月より参画しました。本プロジェクトは企業や家庭で発生する廃食用油を回収して国内で持続可能な航空燃料（Sustainable Aviation Fuel 以下、SAF）を製造し、航空機の運航に利用するプロジェクトで、日揮ホールディングス（株）が主導し、2024年7月末時点で143の企業、自治体、団体が参加しています。

本プロジェクトにおいて横浜ゴムは、神奈川県平塚市の本社および平塚製造所の社員食堂から排出される廃食用油を提供し、今後は国内の他拠点でも取り組みを拡大していく予定です。なお、本プロジェクトへの参加は、ゴム製品業界では初めてとなります。

今回、横浜ゴムのマテリアリティ（重要課題）として掲げている「脱炭素社会・循環型経済への貢献」とプロジェクトの趣旨が合致していることや、当社が航空機向けに飲料水用ウォータータンクや客室内装品などの開発・販売を行っており、航空業界との繋がりも深いことから、本プロジェクトへの参画を決定しました。

横浜ゴムはサステナビリティ・スローガンとして「未来への思いやり」を掲げ、事業活動を通じた社会課題への取り組みにより、共有価値の創造を図っています。

FRY to FLY Project

Photo by Tatsuya Tanaka
日揮ホールディングス株式会社提供

持続可能な航空燃料「SAF（サフ）」について

SAF（サフ）は Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）の略称で、バイオマスや廃食用油など化石燃料以外の材料を使用している航空燃料です。SAF はバイオマスや廃食用油など原材料の生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで温室効果ガスの排出量を従来燃料より約 80%削減できるとされています。日本政府は 2030 年度までに航空機燃料の 10%を SAF にする目標を掲げています。

このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：高橋

TEL：0463-63-0414 FAX：0463-63-0552